

第3期中期目標期間暫定評価報告(自己評価)に関する評定及び委員意見一覧

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置	3	23	1	0	27	96.3%	11.1%	

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

1

イ 学士課程 No.1~4	1	3			4	100.0%	25.0%	A	【評価】 A A 6
---------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---	---------------

【委員意見】

○伊勢委員 A

高大連携やインターンシップなど、着実な取り組みを評価できる。

○伊藤委員 A

○大隅委員 A

○佐藤委員 A

高大連携事業の継続的な取り組みによる効果的な教育と指導体制を整えていることは評価できる。

○中沢委員 A

社会的要請や教育環境の変化に対応するためAPを改正し、外部有識者による査読など入学者選抜制度を改善した結果、総合型選抜や記述式総合問題「論説」が文科省の好事例として評価された。

○中島委員 A

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	---	---	---	---	--------	------	-----

2

□ 大学院課程 No.5~6		1	1		2	50.0%	0.0%	C
----------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

【評価】
C

B 3
C 3

【委員意見】

- 伊勢委員 B
外部資金の調達増は、大学院進学者増につながらないのだろうか？
- 伊藤委員 C
県内市町村には特別のインセンティブを与えてはどうか。
- 大隅委員 B
R6にはコロナ禍の影響も低減され、進学指導や広報活動の成果として進学者の増加がみられた(R6充足率80.8%)。社会人大学院生の受入れについても積極的に対応し、実際の進学者確保にもつながってきた。
- 佐藤委員 B
大学院の令和6年度の入学定員充足率は、80.8%であり、大学院独自の広報活動は、評価できる。
- 中沢委員 C
大学院定員の充足率は令和3~6年度で57.7~73.1%であり、進学指導や広報活動によって令和7年度には80.8%と増加傾向にあるが、目標設定を100%としているため評価はまだ低いままである。
- 中島委員 C
定員未充足は仕方ないと思うが、絶対値評価でC。

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

3

イ 学士課程 No.7~9		3			3	100.0%	0.0%	A
---------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A

教育理念、DP・CPを確認し学習成果把握のためのアセスメント体制を整備するとともに、情報戦略推進体制を構築している。また、情報リテラシーレベルの認定やアントレナークシップ教育も導入している。アソシエイト取得者の目標達成を期待したい。

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

4

□ 大学院課程 No.10~12		3			3	100.0%	0.0%	A
------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A

大学院でもDP・CPを確認して学修成果把握のためのアセスメント体制を整備し、学位論文審査体制を再構築した。情報戦略推進室では研究科に関するデータを収集し、統合システムを整えている。また、社会人のリカレント教育の充実を進めている。

- 中島委員 A

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	Ⅲ	Ⅱ	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	---	---	---	---	--------	------	-----

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

5

イ 教育研究組織 No.13		1			1	100.0%	0.0%	A
----------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A

A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- リカレント教育推進本部の設置に伴う、中長期的な視点からリカレント教育の推進・拡大に期待する。
- 中沢委員 A
- 研究環境の整備や地域との共創を一元的に推進するため、研究推進・地域未来共創センターを設置した。また、情報戦略推進基本計画を策定して統合IRシステムを構築した。さらに、リカレント教育推進のための「リカレント教育推進本部」を設置した。
- 中島委員 A

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

6

□ 教員・教員組織 No.14～16	1	2			3	100.0%	33.3%	A
--------------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】
 ○伊勢委員 A
 ○伊藤委員 A
 ○大隅委員 A
 ○佐藤委員 A
 ファカルティ・ディペロップメント、スタッフ・ディペロップメントの組織的かつ体系的な実施を継続することにより、さらなる教育・研究の向上を期待する。
 ○中沢委員 A
 教員評価を実施して勤勉手当の成績率に反映するとともに、「教員評価制度検討委員会」で制度の向上に努めている。また、望ましい教員像及び職員像、教育研究実施組織の編成方針を定めて公開した。
 ○中島委員 A

7

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

イ 学修・生活支援 No.17～19		3			3	100.0%	0.0%	A
--------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】
 ○伊勢委員 A
 ○伊藤委員 A
 ○大隅委員 A
 ○佐藤委員 A
 ○中沢委員 A
 学生への学修支援として、学生相談、合理的配慮、多様性対応、修学支援制度などを全般的に備えている。思いやりや声かけによるコミュニケーションの重要性を学ぶ企画として、ブラインドサッカー選手との交流・競技体験は評価できる。
 ○中島委員 A

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	Ⅲ	Ⅱ	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	---	---	---	---	--------	------	-----

8

□ キャリア形成支援 No.20～21		2			2	100.0%	0.0%	A
---------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 宮城県内の企業と連携し、本学独自のインターシップを活用し、学生のキャリア支援は評価できる。
- 中沢委員 A
- キャリア開発室による学生面談を行うほか、国家資格・公務員試験対策も充実している。また、宮城県内企業等がインターンシップ科目に協力して作成した、宮城大学学生のための独自インターンシッププログラムがある。
- 中島委員 A

【特記事項に関する委員意見】

- 伊勢委員
- 学生に対する細やかな取り組み(高校生、在学生、教育内容、特色あるプログラムの提供、就職まで)がなされていると感じる。

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

9

2 研究に関する目標を達成するための措置 No.22～24	1	2			3	100.0%	33.3%	A
-------------------------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---

【評価】
A

S 2
A 4

【委員意見】

○伊勢委員 S
 県立大学としての特色を活かした取り組みがなされ、また着実に成果を見せていると感じる。

○伊藤委員 A
 目標指標をクリアされ評価できる。更なる自治体、企業とのコラボに期待する。

○大隅委員 A
 R6の教員あたり論文数は1.5本／年となっているが、分野別にみた場合、事業構想学群の研究発信力に関して低下傾向にあるかどうか、もしそうであれば何らかの対策を講じるべきと考えられる。

○佐藤委員 S
 令和4年度から令和6年度まで、外部研究資金獲得額が、目標額を上回っており、中期計画の目標を大幅に上回っていると評価する。

○中沢委員 A
 「宮城大学研究・共創フォーラム」の実施内容を見直し、自治体や企業等に研究シーズを紹介するという社会連携に重きを置いている。なお、外部資金獲得総額は、175,698千円(R3)、215,672千円(R4)、257,484千円(R5)、229,046千円(R6)と高い水準を維持している。

○中島委員 A

【特記事項に関する委員意見】

○中沢委員
 宮城大学として、リサーチ・アドミニストレーター(URA)の確保あるいは育成が必要となっていると考えられる。また、オープン・アクセスの投稿料(APC)への対応についても迅速な検討が必要であろう。

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

10

3 教育研究環境の整備に関する目標を達成するための措置 No.25～27

IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
	3			3	100.0%	0.0%	A

【評価】
A
S 1
A 5

【委員意見】

○伊勢委員 A
 県立図書館との連携は、立地、組織主体、意義的な観点からも推進すべき。

○伊藤委員 A
 ○大隅委員 S
 教育研究環境の整備に関して、電子ジャーナルやデータベースの整備について実情に合わせた改善を行っている。またオンライン・ジャーナルとして独自のオウンドジャーナルの発行を続けている点は特筆に値する。

○佐藤委員 A
 ○中沢委員 A
 宮城大学出版会を発足し、研究ジャーナルを刊行した。他にインターネットによる音声配信(Podcast)番組「MyULP」も配信している。さらに、若手研究者の研究活動を支援する目的で新たな教育研究費を配分した。

○中島委員 A
 以前より研究ジャーナルの発行を続けている。

【特記事項に関する委員意見】

○中沢委員
 研究資金については、MASPや各種スタートアップ事業に関する外部資金と学会研究費の融合あるいは区分が今後は必要になってくるかもしれない。

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	1	5	0	0	6	100.0%	16.7%	
-----------------------------	---	---	---	---	---	--------	-------	--

11

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置 No.28~31	1	3			4	100.0%	25.0%	A
---------------------------------	---	---	--	--	---	--------	-------	---

【評価】
A
S 2 A 4

【委員意見】

- 伊勢委員 S
地域貢献は県立大学の使命でもあり、着実に組み立てられていると感じるが、今後はより県民が県立大学の意義を実感できる成果を期待する。
- 伊藤委員 A
地域貢献で、食産業学群が頑張っている。更なる貢献を期待する。
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
市町村や企業等との連携事業・受託事業の推進が宮城大学の本丸であり、「自治体向けセミナー」、「リカレント教育プログラム」、「オンライン公開講座」の実施により、産学連携へとつなげている。また、ソーシャルアントレプレナー人材の育成にも貢献している。
- 中島委員 S
公開講座を多数実施、自治体との連携を強化が災害対応など、以前から地域貢献は活発に行われている。

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

12

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置 No.32～33		2			2	100.0%	0.0%	A
----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A

学生交流について、交換留学生の受入実績が少なく、留学生の受入体制の見直し、協定校への積極的な働きかけによる留学生増加を期待する。

- 中沢委員 A

国際交流協定校を新規開拓するほか、JICA青年研修等の受入に協力している。奨学金等の外部資金の積極的な活用により学生の海外渡航を支援している。また、外国人留学生を確保するため日本語学校等の外国人留学生を対象にした説明会やキャンパスツアーを実施している。

- 中島委員 A

【特記事項に関する委員意見】

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0	5	0	0	5	100.0%	0.0%	
------------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

13	1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 No.34～35		2			2	100.0%	0.0%	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【評価】</div> <div style="background-color: yellow; padding: 2px; display: inline-block;">A</div> A 6
----	------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	--

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
地域未来共創センターの益々の活躍に期待する。
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
理事長・学長の執行体制の移行、研究推進・地域未来共生センターの設置、内部統制及び内部監査の充実強化等について、中期計画達成に当たって、評価できる。
- 中沢委員 A
理事長・学長による2名執行体制へと移行するとともに、内部統制を強化することを目的として、研究及び地域連携分野を統合した研究推進・地域未来共創センターや監査室を設置した。
- 中島委員 A
理事長が元県職員であることにより、設置団体との関係が密になっている。

14	2 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 No.36～37		2			2	100.0%	0.0%	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【評価】</div> <div style="background-color: yellow; padding: 2px; display: inline-block;">A</div> A 6
----	-----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	--

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
全学FD・SD研修の実施による職員の資質向上への取り組みは、評価できる。
- 中沢委員 A
公募による事務職員の採用試験を実施して適切性を確保するとともに、公立大学協会及び国立大学法人東北大学に派遣し、職員の資質向上に努めた。職員研修の基本計画を定め、全学FD・SD研修や各種研修を実施し、職員の資質向上に努めている。
- 中島委員 A

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

15

3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 No.38		1			1	100.0%	0.0%	A
-------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A

A 6

【委員意見】
 ○伊勢委員 A
 ○伊藤委員 A
 ○大隅委員 A
 ○佐藤委員 A
 ○中沢委員 A
 優れた功績のあった職員を優良職員として表彰した。また、安心して子育てできる環境を整備するために各種制度を導入し、多様で柔軟な働き方の取組を推進している。
 ○中島委員 A

【特記事項に関する委員意見】
 ○伊勢委員
 理事長・学長の分離体制が効果を示したと感じる。

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0	4	0	0	4	100.0%	0.0%	
-------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

16	1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 No.39~40		2			2	100.0%	0.0%	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【評価】</div> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 2px; display: inline-block;">A</div> A 6
----	--	--	---	--	--	---	--------	------	---	---

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A

17	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.41		1			1	100.0%	0.0%	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【評価】</div> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 2px; display: inline-block;">A</div> A 6
----	-------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	---

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 業務の効率化は、業務の分散と統合、内製と外部委託について、検証するにあたっては、業務の効率化とコストの両面で検討が必要である。
- 中沢委員 A
- 中島委員 A

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

18

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.42		1			1	100.0%	0.0%	A
------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】
 ○伊勢委員 A
 ○伊藤委員 A
 ○大隅委員 A
 ○佐藤委員 A
 中長期的には、施設設備の維持・修繕並びに光熱水費・委託費のアップが予想される中で、収支バランス改善するための方策を検討が必要である。
 ○中沢委員 A
 ○中島委員 A

【特記事項に関する委員意見】

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	0	3	0	0	3	100.0%	0.0%	
---	---	---	---	---	---	--------	------	--

19

1 自己点検・評価の充実に係る目標を達成するための措置 No.43～44		2			2	100.0%	0.0%	A
--------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A

令和7年度受審に向けて、令和5年度に受審機関を決定し、令和6年度には受審に向けた自己点検・評価活動を実施しその結果を点検評価ポートフォリオにとりまとめている。

- 中島委員 A

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	Ⅲ	Ⅱ	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	---	---	---	---	--------	------	-----

20

2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.45		1			1	100.0%	0.0%	A
----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】
 ○伊勢委員 A
 ○伊藤委員 A
 ○大隅委員 A
 ○佐藤委員 A
 ○中沢委員 A
 令和3年度に「宮城大学広報ツールのトータルデザイン」として、統一感ある広報が評価され、グッドデザイン賞を受賞している点は評価できる。また、令和3-6年度でメディア掲載・出演情報件数が着実に増加している。
 ○中島委員 A

【特記事項に関する委員意見】

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとすべき措置	0	4	0	0	4	100.0%	0.0%	
---------------------------------	---	---	---	---	---	--------	------	--

21	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.46		1			1	100.0%	0.0%	A	【評価】 A	A 6
----	-------------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	-----------	-----

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 中長期的には、施設設備の維持・修繕費は、中長期の予算策定が必要である。
- 中沢委員 A
- 中島委員 A

22	2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.47～48		2			2	100.0%	0.0%	A	【評価】 A	A 6
----	----------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---	-----------	-----

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A

第3期中期目標期間における暫定評価報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	IV	III	II	I	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	----	-----	----	---	---	--------	------	-----

23

3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.49		1			1	100.0%	0.0%	A
-------------------------------	--	---	--	--	---	--------	------	---

【評価】
A A 6

【委員意見】

- 伊勢委員 A
- 伊藤委員 A
- 大隅委員 A
- 佐藤委員 A
- 中沢委員 A
- 中島委員 A

【特記事項に関する委員意見】

合 計	4	44	1	0	49	98.0%	8.2%	
-----	---	----	---	---	----	-------	------	--

【委員意見】(全体評価)

○伊藤委員

- ・経営と教育を理事長と学長に分離した効果が出ている。以前は学長に大変な負担がかかっていた。
- ・地域未来共創センターを中心に交流事業や共同研究が年々増えていて更に成果も出てきていることに敬意と評価をする。今後は少子高齢化に向けた地域課題が山積しているの、学群を越えた連携のもとに日本のモデルを構築されることを期待する。
- ・生徒数が激減する中で、選ばれる大学としての存在感を確立されたい。

○中沢委員

- ・生成AIへの対応について、学生には注意喚起を促しているが、事務職員の業務支援に関する利活用等の方針が必要である。
- ・大学院博士課程の学生募集についてはどの大学でも苦勞しているが、他大学の中には大学独自の手厚い学生支援制度を構築している場合もある。宮城大学では今後の方針をどのように考えているのか？